



みんなが
大好きな
『三国志演義』
①

諸葛亮

趙雲

『三国志演義』は、中国の後漢時代の末（日本の弥生時代末期と同時期）を舞台にした時代小説です。

漢

後漢の末は、
三国時代の始まり

関羽



呉

孫権の国

魏

曹操の国

蜀

劉備

劉備の国



国際交流員が紹介する
「一、二、三!
楽しい中国文化」
四大名作②

みんなが大好きな 『三国志演義』②

中国の明の時代（日本の室町時代と同時期）に、羅貫中によって書かれたと言われています。「三国時代」は歴史の中で実在していましたが、『三国志演義』は、時代小説として事実と虚構が混ざっている物語です。ストーリーは、魏・蜀・呉の3つの国が立ち上がり、新たな「三国時代」が開かれたとき、3人の主人公（劉備、関羽、張飛）が桃源で結義（兄弟になる）を誓ったことから始まります。この混乱の時代に、主人公達がたくさんの冒険と困難を経験し、3つに分かれた「天下」が再び統一されていく様が描かれています。これは、あくまで私の個人的な解釈ですが、『三国志演義』には日本の『平家物語』と似ている「核」があると思います。両方とも人生の「無常」を中心とした物語です。どんなに隆盛を極める人物がいても、その結末は、悲劇の場合が多いです。「世間は、変わらぬ物がない」ということは『三国志演義』の始まりから強調されています：

「そもそも天下の大勢は、分裂が長ければ必ず統一され、統一が長ければ必ず分裂するものである。」

桃園の誓い

国際交流員が紹介する
「一、二、三！
楽しい中国文化」
四大名作②

